



季節を知ったら  
暮らしが楽しくなった

（第二六九号）

雨水うすい

二月十九日

## 村松の御頭神事

宮川流域の各地では一、二月、御頭神事おかしらしんじが行われます。河口部左岸にあたる村松町むらまつでは二月十一日（かつては旧暦一月十一日）に町を挙げて行われました。ここでも御頭舞は、スサノオノミコトの八岐大蛇退治を表した「七起こし舞」ですが、一年に一度だけ宇気比神社うけひで披露されるのが「大神宮の舞」。外宮の方を向いて舞うのが特徴です。なぜ外宮なのかというと、村松は伊勢神宮外宮に奉任してきた度会神主わたらいの一族、度会家行わたらいいえゆきの居館があったところで、その関わりから外宮に向けて特別な舞を披露するのではないかと思われま

す。御頭は、獅子舞の頭を特に敬うことに由来する名前ですが、この村松の御頭の飾りつけを拝見して、それがよくわかりました。御頭の大きく開いた口に、セチ（鏡餅）とひし形の餅をのせ、その上に十個串刺した干柿、みかんをのせてかませます。御頭の前には、朝炊いたご飯とボラ一匹まるごと焼いたもの、まなす、ゴボウ・にんじんなどの炊きものと、もう一つの折しきには、伊勢海老二匹が供えられています。

各地の御頭神事でも御頭の前には鏡餅が供えられますが、ここでは口にかませ、さらに調理した食事を供えているところが古式を残しているところなのでしよう。

もう一つ興味深いのが、御頭神事の刀抜き行事です。浜通りに張られた注連縄を季節の境と見立てて、手前が冬（旧年）、向こうが春（新年）としているのです。この注連縄が切られると、若衆が「一番春」をめざして競争し、豊穡を願います。その際の掛け声は、「エトウ」といいますが、これは越冬とも、頭が栄える栄頭にも通じるのでしよう。「春」を呼び込む行事です。

文 千種清美



# おかげの里便り

## おかげ横丁

### ○ ひなまつり

平安時代から受け継がれてきたひなまつり。

桃の花や可愛い飾りで彩られ、いつもより華やかになり心浮き立つおかげ横丁で桃の節句をみんなで祝い、女の子の健やかな成長を祈る華やかな催しを楽しんでください。

と き／2月17日(土)～3月4日(日)

10:00～17:00(催しによって異なります)

ところ／おかげ横丁一帯

### ● ひなたちの餅まき

厄払いの神事の餅撒き。おかげ横丁では、お餅を「福」に見立て、着物姿の女の子に撒いていただくことで、上巳の節句の日に健康と厄払いを行います。

と き／3月3日(土) 15:00～

ところ／おかげ横丁「太鼓櫓」

## 五十鈴塾

### ○ 江戸時代のリサイクルに学ぶ

資源の乏しい日本、いまでこそ輸入品が豊富に入ってきて貿易赤字を考えなければ日常の生活には困りません。がしかし江戸時代、鎖国をしていた日本では自国のものでなんでもまかなわなければならなかったのです。したがって究極のリサイクルがなされていたといえます、特別なことではなくごく普通に、それは始末という美しい言葉でした。衣食住全てにおいて徹底的に再利用し、ごみはなるべく少なくしようと努力をした昔の人々。それでも出るものはどう処理してきたのか、切羽詰まると人は良い知恵が浮かぶようで、そろそろ無駄を省きたいと考えている人たちが増えてきた今、もう一度先人の知恵に学んでみませんか？

と き／2月26日(月) 18:30～20:00

講師／神崎 宣武(民俗学者・五十鈴塾塾長)

参加費／一般1,600円 会員1,100円

集合／五十鈴塾右王舎

※お問い合わせ・お申込み 0596-20-8251

## 五十鈴茶屋

### ○ 節気菓子

うめ  
梅ごよみ

薄紅色の軽羹で、白小豆を散らした羊羹を巻き、  
今が盛りと咲く、美しい梅花に見立てました。

つばきもち  
椿餅

こし餡を道明寺で包み、椿の葉ではさみました。  
源氏の君も召されたであろう、風雅至極の椿餅です。

な はな  
菜の花

菜の花の色に習い、村雨を淡く染め、粒餡を包みました。  
そよ風が頬を撫でる、のどけき田園の春模様です。